

- 1 弁当買うと箸はと聞かれチューリップ
- 2 根菜の切り口平ら春のくれ
- 3 箸につかむ名の知れぬ菜よ春の風邪
- 4 眼鏡越しの視界が不安鳥の恋
- 5 蠟梅を数えそうということなのか
- 6 結ばれてみくじは怠け春一番
- 7 雲ゆたか梅が咲くにはまだ早し
- 8 啓蟄の水は蛇口を労わりぬ
- 9 ライターは煙草をいじめ春の星
- 10 指先にパソコンの熱春の雨
- 11 朝と夜のあいだ白木蓮ひらく
- 12 さくらさくら電車が通り過ぎて風
- 13 いい風や刈られてつつじらしくなる
- 14 河童忌の鉄のにおいの掌よ
- 15 自転車や腕に時計をつけて暑し
- 16 建てられて永久に日焼けのビルディング
- 17 胡蝶蘭しなる支えの棒しなる
- 18 かなぶんや道に行儀のよき街灯
- 19 焼きそばのソースが濃くて花火なう
- 20 潮風にロープは強し夏つばめ
- 21 コーラの氷を最後には噛む大丈夫
- 22 砂の城崩れて砂や夏の暮
- 23 前髪にいたたく影ぞ墓参り
- 24 目ぐすりの一瞬雲の峰ふくらむ
- 25 街路樹に秋のひかりよ夏ではない
- 26 新涼の耳たぶあつて耳重し
- 27 都市の灯に星は隠れて秋の風
- 28 稲の花朝をくださる光かな
- 29 小鳥来る珈琲は食事にならず
- 30 原稿用紙つめたし八月を綴りけり
- 31 手に指あり枝に葉はなし秋澄みぬ
- 32 体温はたましいの熱梨を食う
- 33 太陽は赤なり赤で描く子規忌
- 34 かなかなや洗濯物は乾いているか
- 35 食べ始めて家族はしずか秋薔薇
- 36 ちちははや鬼灯に照らされし卓
- 37 鳥渡る頬に涙の流れたる
- 38 鼻に掛けて眼鏡重たし翳雲
- 39 月がきれい人それぞれに詩があつて
- 40 空青し寒くなければ冬がよし
- 41 よく晴れて海の広しよ冬の安房
- 42 小春日の波音にずれてゆく波
- 43 しぐるるや滑舌悪し舌長し
- 44 椅子の背にコート落ち着かせて会話
- 45 冬うららチョコにナッツのかたくある
- 46 町は聖夜ヘッドホンをしてひとり
- 47 双眼鏡の先に凍星ずらしても凍星
- 48 冬ざるるカップ焼きそばの湯をきれば
- 49 あくびするひとのとなりも冬のくれ
- 50 春を待つお酒のあとのよい眠気

一次選考通過
越智友亮 (046)

第4回芝不器男俳句新人賞 応募作品
※無断での転載・二次配布を禁じます
芝不器男俳句新人賞実行委員会

- 51 光は春鏡に水滴の跡が
52 うたにしてことのはゆたかはるのみず
53 由緒書きをさーっと読んで梅の花
54 鳥雲に電話になると大きな声
55 珈琲に馴染まぬ乳や日永し
56 春山に踏ん張っているケーブルカー
57 ビニール袋の取っ手痛そう春の暮
58 見上げたら藤房あつと鼻に触れ
59 轉りや椅子引いてさびしき机
60 細字すなわち筆圧弱し雲は春
61 たんぽぽやコピー用紙を綴じれば本
62 初夏のひかりにかたき芝生かな
63 そら豆の莢よ陣痛しているか
64 膝を折る関節しずか夏の川
65 アイマスク代わりに本や風涼し
66 金魚ゆらゆら眠れないから電話を待つ
67 水槽に空気は淡し夏の風邪
68 アイスコーヒー満ちてストロー支えたり
69 ところてんに疲れし箸やゆうぐれぬ
70 我らに愛を夕顔に水をやる
71 恋も愛も Love で表すソーダ水
72 文字にして言葉恥ずかし水中花
73 カーテン揺れて水族館めく部屋よ夏
74 パトカーを見た緊張やつくつくし
75 八月の幽霊に触れ君に触れ
- 76 酌む酒や名月に窓枠が邪魔
77 秋の蚊と互いの運を嘆き合わん
78 肩こつて気疲れかしら林檎に葉
79 桐一葉空にひかりの満ちている
80 拝啓や秋のインキの滲みやすき
81 虫しぐれ見上げて星にはるかな距離
82 灯されて雨脚見えし栗ようかん
83 木犀や両手で握手して別る
84 紅葉かつ散る心臓に室と房
85 星澄みて冬のようなり自転車漕ぐ
86 会うと抱きたし冬の林檎に蜜多し
87 マフラーに顔をうずめる好きと言おう
88 暖房やリュック抱えて席に座す
89 足組んでブーツ重たし小夜時雨
90 謙遜や落葉のうえに落葉つもる
91 コーンポタージュ缶に残りしコーンかな
92 門松に雲こそばゆし犬吠える
93 土手沿いに川は流れて帰り花
94 牛井に玉ねぎ光る冬の雨
95 マスク盛り上げたる鼻の憎らしき
96 鼻風邪や硝子戸越しに青き空
97 瓦礫に陽水仙に陽や生きめやも
98 隆起して陸あたたかや光りたる
99 最中は餡はみだし黄泉は永久の春
100 春や嗚呼和式便所の上に尻